

広島県鉄骨工業会

創立50周年式典を開催



集合写真

100人が出席、祝賀会も

広島県鉄骨工業会（理事長＝山本泰徳・ステントス社長）は25日、広島市内のホテルで通常総会および創立50周年記念式典・祝賀会を開催。組合員や来賓など約100人が出席し、50周年の節目を祝った。

あいさつに立った山本理事長は「先人たちの努力により業界の今がある。今回の記念式典は青年部メンバーが結束して英知を出し合い、つくり上げてくれた。2世から3世へと世代交代が進む中、新たなことに取り組むとともに、歴史もしっかりと学びたい。われわれ鉄骨業界は下請けでない。日本の安全な建築物を構築するため、リーダーたる気概で仕事に取り組んでいく」と述べた。

来賓には、湯崎英彦・広島県知事、全国鉄骨工業協会の永井毅会長、白田学・日本製鉄中国支店長、松尾彰・広島大学名誉教授など多数が出席。湯崎知事

は「広島県ではデジタルトランスフォーメーション（DX）化を戦略的に取り組む『広島デジタル構想』を進めている。より安心安全な建築物を構築するた

めにも、人材づくりを含め官民連携を強化していきたい」とあいさつ。続いて、永井会長は「全構協も今年50周年を迎える。業界を支える次世代育成のためにも、一段と結束を強め、前進していく」と述べた。

議事では昨年度の事業報告、本年度の事業計画を発表。常石鉄工（福山市）、Confidence（三次市）、広島メタルワーク（広島市）の3社が新たに加入したことが報告された。

式典では組合の歴史を振り返った記念動画が流されたほか、業界功労者の表彰、青年部メンバーによる未来宣言などが行われた。

続いて行われた祝賀会では、白田支店長が「工業会は鉄骨業の従来イメージを覆す活動を展開されている。鉄鋼業も2050年カーボンニュートラル（CN）達成に向け、大型電炉での高級鋼製造など新たなチャレンジに挑んでいる。ともに高いハードルを乗り越えていく」とあいさつ。歓談のあと、盛況のうちに幕となった。



山本理事長

「今後も鉄骨ファブリーター業界の地位向上に向けた活動を続ける。次世代のリーダー育成にも力を入れていきたい」と話すのは、創立50周年の節目を迎えた広島県鉄骨工業会の山本泰徳理事長（ステントス社長）。

鉄骨ファブの地位向上

△…広島県鉄骨工業会は、1973年に会員120人で発足。翌年、協同組

合広島県鉄骨工業会を設立した。高度経済成長期から鉄骨造の建物が増えはじめ、ピーク時の組合員数は130社を超えていた。その後は好調期だけではなく、バブル崩壊による長い低迷期なども経て、現在は80社7支部で活動する。

△…山本氏は14年に理事長に就任して以降、鉄骨ファブリーター業界の地位向上を第一の理念に掲げ、高い先見性と強いリーダーシップを持って組合活動に取り組んできた。公共工事の積算見積り有料化や青年部会活動の活性化のほか、顧問弁護士制度の導入、組

合員限定で公開している高炉メーカーとのコラボレーション動画の製作といった、独自の取り組みも進めてきた。産学連携による技術研究も積極的に行う。同組合の活動は「広島県方式」と呼ばれ、全国の各団体でも参考にされていることが多いという。

△…持つ、希少価値のある自立した業界にしていく」と話す。△…創立50周年を迎え「組合員にはこれからも横のつながりを大切にしたい」と話す。次世代へのバトンタッチに向け、昨年には理事会メンバーの若返りも図った。山本理事長の就任以降、組合員各社の若手社員などが集まる青年部会も若手技術者の会として積極的に活動する。「敵は同業者ではない。絆を強くし、互いに成長し、魅力あるファブ業界を実現していきたい」（長）